

# 平成29年度 五段位認定者研修会・開催報告

段位認定事業部 段位認定部会長 谷端淳一郎



五段位認定者を対象とした、研修会が初めて開催されました。この研修会は全麵協活動の理解を深め、そばに関する高度な知識習得と五段位認定者相互の情報交換を通して指導者としての資質と見識を高めることを目的として開催されました。

- 1,期 日 : 平成29年12月10日(日)  
午前9時30分 ~ 午後5時
- 2,会 場 : 麵業会館 2階(東京都千代田区)
- 3,参加者 : 56名(第1回~第4回・認定者)
- 4,カリキュラム : 4ページ参照

## 5,講義概要

### 第1講 全麵協五段位認定者としての矜持を持つために

全麵協が持続可能な組織となるために、五段位認定者が先頭に立って牽引して行ってもらうことが不可欠で、そのため、全麵協はどの方向に向かっていくべきかの共通認識を持っていただきたい。五段位認定者の心得は「矜持、謙虚、感謝、リーダーシップ」のキーワードで表わされる。五段位認定者に期待する事は ①全麵協の組織、運営方針、予算等を正確に理解して所属会員等を指導すること。②全麵協事業に積極的に参加すること。③そば道理念と道憲章の実践と普及活動を図る。④リーダーシップを発揮して全麵協の拡充を図る。の4点。

### 第2講 全麵協の適正な組織運営と財源のあるべき姿

全麵協は先進国で前例のない「少子高齢化」が進展する我が国の中で、全麵協を次の世代にどのような形でバトンリレーすべきか、10年後の全麵協に何を絞って共に考えたい。10年後は年間1,000人の新有段者を迎え、個人会員1万~1万5千人も実現不可能ではない。4支部体制は今後ブロック単位へ、最終的には各県単位の組織を目指すべき。効率的な事業執行には事務局の充実が不可欠、フルタイムで働ける専任職員が4人程度必要になると思われる。

### 第3講 そばとの出会いと五段位認定者に期待すること

「最高段位」と位置付けられている五段位認定者は、全麵協を魅力ある組織への進化を図る役割を持っている。そのためには、①全麵協の組織や運営方針、事業計画等を正確に理解する。②段位認定制度の理解を深め、蕎麦の知識やそば打ちの楽しさや更なる技術の向上を図る。③支部組織の充実発展のため、積極的な関わりを持つ。④海外視察に参加し、会員に幅広いそばの魅力を紹介する。⑤若者にそばの積極的普及活動を推進する。を行って欲しい。全麵協を持続可能な組織として発展させることが、「そば打ち段位」を価値あるものとする事が出来る。そのために、五段認定者が大きな力と役割を担って、会員や段位認定者と共にそばによる地域振興(=社会貢献)を行って欲しい。また、海外そば視察で訪れた、モンゴルとネパールでの研修内容や成果について報告があった。

### 第4講 五段位認定者として期待される具体的な活動

支部と連携して実施している「三・四段位受験者技術研修会」の開催状況について報告があった。また、「後世に残そう! 地方のそば打ち映像」と銘打って、平成25年から行っている「郷土そばの撮影」を紹介した。その内、今年9月に訪れた長野県で収録した「戸隠そば」の映像を上映した。通常のそば打ちでは「水回し」を重要視するが、「戸隠そば」ではこの工程には余り時間をかけないで、「こね・練り」に時間をかけて作業していることを紹介した。

## 第5講 五段位認定者として期待される今後に向かうべき方向とは(パネルディスカッション)

4名のパネリストが登壇して、①五段位認定者としてどのような認識を持って、何を行っているか(活動紹介)。②全麵協の存在・活動を、どのようにして地域に波及させるか。③そばによる人材の育成について。の3点について、活動を紹介しながら話し合った。また、参加者からも現在行っている活動や取組みを紹介してもらった。

## 第6講 人材育成と地域おこし

「地域活性化」は時代とともに、人口、経済重視からサステナビリティ(持続可能性)、幸福度重視へと概念が変わりつつある。また、一部の人が頑張る活性化から、全員参加型・共生社会づくり型の活性化になって来ている。地域力を強化することは地域力の創造であり、結局は人間力に依存するところが大きい。人間力とは、能力×やる気の総和と、つながり力(内部の絆と外へ向かってのネットワークを強くする力)である。「ネオ内発的発展論」とは、地域にあるもの+外部の人材、ノウハウ、資本 であり、「もの」ではなく「こと(ストーリー)」を売ること。企業経営と地域経営は通ずるものがあり、ランチェスター戦略などの経営学に学ぶことが地域づくりに有効。地域を活性化させるには、結局のところ、人材(=人財)育成が一番重要である。

## 6.研修会を終えて(感想)

今年度に第5回の「五段位認定会」を実施して、現在88名の五段位認定者となっています。この内1～4回の五段位認定者は65名で、今回の研修会には56名(参加率86%)の参加者があり認識の高さがうかがえました。平成19年に第1回の五段位認定会が実施されてから10年間、今回の「五段位認定者研修会」は初めての開催です。講義の中で共通して言われたのが「五段位認定者こそが、全麵協を持続可能で魅力ある組織へ進化させる役割を担っている。」ということでした。魅力ある組織とは魅力ある活動を行なうことであり、法人化した全麵協にとって魅力ある活動とは、社会的に価値ある活動とすることができます。

全麵協が目的に掲げている「そばによる地域振興」を、中谷理事長は今回の研修会で「そばによる社会貢献」との解釈を示して活動の方向を明らかにしました。また、地域活性化センターの椎川理事長は、地域活性化を進めるためには「つながり力(内部の絆と外へ向かってのネットワークを強くする力)」が不可欠であることを説きました。これを聞いて、わが意を得たりと確信を得たのですが、それは全麵協発祥の地である旧・富山県利賀村がとった地域活性化の手法でした。旧・利賀村が地域活性化で行った手法は、「地域外との交流」だったのです。研修会の中で我が国の課題として、「少子高齢化の進展」が挙げられていましたが、半世紀前に旧・利賀村は急激に人口減少が進む「過疎」に直面していました。その対策として果敢に地域活性化に取り組み、集大成として開催したのが「世界そば博覧会 in 利賀村」であり、この果実として生み出されたのが、全麵協の前身である「全国麵類文化地域間交流推進協議会」でした。温故知新という言葉がありますが、全麵協に流れている地域活性化の精神は現在の我が国にとって不可欠なものであり、現代社会が全麵協に求めているものなのです。

## 7.五段位認定者研修会スナップ写真







第2講



第3講



第4講



第5講



受講風景



第6講



交流会



交流会

一般社団法人 全麵協  
五段位認定者研修会 カリキュラム

12月10日(日)			
受付開始	9:00～		
開 式	オリエン テーション	9:30～9:40	段位認定事業部
	開会挨拶	9:40～9:50	主催者 全麵協 理事長 中谷 信一
研 修 内 容			
第 1 講	10:00～10:50	全麵協五段位認定者 としての矜持をもつために	段位認定事業部長 加藤 憲
第 2 講	11:00～11:50	全麵協の適正な組織運営と 財源のあるべき姿	全麵協事務局長 藤間 英雄
昼 食	11:50～12:40		
第 3 講	12:40～13:30	そばとの出会いと 五段位認定者に期待すること	全麵協 理事長 中谷 信一
第 4 講	13:40～14:30	五段位認定者として 期待される具体的な活動	段位普及部会長 落合 輝美
第 5 講	14:40～15:50	五段位認定者として 今後に向かうべき方向とは (パネルディスカッション)	・司会 段位認定部会長 谷端淳一郎 ・パネリスト 山本良明(北海道支部) 横田節子(東日本支部) 水口久雄(中日本支部) 山本 剛 (西日本支部)
第 6 講	16:00～17:00	人材育成と地域おこし	一般財団法人 地域活性化 センター 理事長 椎川 忍
交 流 会	18:00～		
解 散	20:00		